

しかだんみん 止暇断眠の誡め

この夏は、ずいぶんと勉強をしました。8月4日からの三日間は、新しい教務さんのスクーリング(集中講座)が京都の宗務本庁で実施され、私は初日を担当してご奉公の心得などを講義しました。今回は受講者に、最近まで報道番組の「ひるおび」でコメンテーターを務めていた毎日新聞客員論説委員の福本容子さんが新米の佛立教務「清容師」として参加されたので、いつになく緊張感がありました。

8月6日から8日までの三日間は、弘通局主催の「見習い教務養成所」「学徒研修会」に参加しました。この研修は、ご弘通の核となる「教務さん」を目指す人や、在家のままご住職のお弟子となって教務さんのご奉公を手伝う「学徒さん」に挑戦する人を支援するものです。当初は本山で三日間実施する予定でしたが、デルタ株の猛威が心配される中、どうしてもオリンピックを開催するとの報道を受け、7月初めに全面オンラインに変更。50名程の申込を得ました。私は学徒のご奉公についての講座を担当し、開導聖人の学徒さんへの指導や、昭和初期まで活躍した「長松学徒会」のこと、近年の学徒研修の様子などを踏まえた学徒のイメージをお話ししました。

16日の晩は「海外弘通スクール」のオンライン講座で2時間半、私の書斎から講義しました。これは佛立新聞等でも紹介しましたが、国際的なご弘通を担う人材を育てようと今年スタートさせたご奉公で、10名程の若手の教務さんが毎月受講をしています。今月は「高祖の御妙判」をテーマに、宗教や文化の違う外国人に、お祖師さまの御書の何を伝えて佛立信心を発信するか、という点を考えました。

そんなことで、図らずも毎回テーマの異なる講座を短期間ですることになり、前後して役中御講では石岡日養上人のご講話からご奉公のポイントを学ぶ資料を作り、壮年会御講では「法華経」に説かれる信行のツボを御法門のプリントにまとめ、婦人会御講の前には御妙判を教材にしたレジメを準備しましたので、一時はいろいろな情報が頭の中に錯綜してパニックになりましたが、学ぶ機会を得るたびに手抜きをせず、ジタバタと苦しんで取り組んできたことが、ようやく器量の乏しさを補って、妙法の深みを垣間見る楽しさに変わってきたようにも思います。住職としての法務やお寺の護持のための作務、宗門や学校のご奉公の合間を縫って勉強できるのも、家族や教務方、ご信者の皆さまが護ってくださるお陰と改めて感謝します。

ご信者と同じ信行ご奉公をして罪障消滅に努める中で、教務が担う役割は「正しく教えを学び、伝えること」と教わります。お祖師さまが「我が門下は夜は眠りを断ち、昼は暇を止めてこれを案ぜよ。一生空しく過ごして万歳悔いることなかれ」と督励された所以です。故に教務さんは常勉強で、仏祖の御本意やお祖師さまのご信心を謙虚に求めねばならないのですが、次なる課題は学んだ妙味をどう伝えるかです。残念ながら、新たなご信心の境地を求めて話を聞く人は、松風寺には少ないのです。より多くの方に伝えるために精進しますので、聴聞の場に家族や縁者をお誘いいただくと有難いです。

(松風寺月報 令和3年9月号)